

※2013年1月改訂(第12版 販売会社変更)
※2008年2月改訂

処方せん医薬品:注意一医師等の処方せんにより使用すること

貯 法:室温保存
使用期限:3年
(外箱・容器に表示の使用期限内に使用すること)

コンドロイチン硫酸製剤

* コンドロイチン注1%「マイラン」
* コンドロイチン注2%「マイラン」
Chondroitin

(コンドロイチン硫酸エステルナトリウム注射液)

日本標準商品分類番号
873991

	1%	2%
承認番号	21700AMX00101	21700AMX00102
薬価収載	2008年2月	
販売開始	1988年7月	

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組 成

容 量		1% (20mL)	2% (10mL)
成分・含量 (1管中)	コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	200mg	200mg
添加物	塩化ナトリウム pH調整剤	180mg 適 量	50mg 適 量

2. 製剤の性状

性 状	無色または微黄色のやや粘稠な注射液である。
pH	6.0~7.0
浸透圧比	0.5~1.4 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

進行する感音性難聴(音響外傷を含む)

症候性神経痛、腰痛症、関節痛、肩関節周囲炎(五十肩)

【用法・用量】

コンドロイチン硫酸エステルナトリウムとして、通常成人1回20~300mgを1日1回静脈内又は筋肉内注射する。ただし、鎮痛の目的で使用する場合には、経口投与が不可能な場合又は経口剤で効果がみられない場合にのみ使用し、経口投与が可能になった場合には速やかに経口投与に切り替えること。

なお、静脈内注射は急性症状にのみ使用すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

薬物過敏症の患者

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用(頻度不明)

ショック:ショック様症状があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

種類	頻度	頻 度 不 明
過 敏 症 ^(注)	発疹、熱感	
適用部位	注射局所の疼痛	

注) 発現した場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では、生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

(1)投与時:筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に注意すること。

- 1) 同一部位への反復注射は行わないこと。
- 2) 神経走行部位を避けること。
- 3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

(2)アンプルカット時:本品はワンポイントカットアンプルであるが、アンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

【薬効薬理】

(1)結合織に対する作用

牛皮コラーゲン溶液のマウス背部への局所投与による結合織コラーゲン線維の再生を促進させる¹⁾。また、in vitroで再構成された仔牛アキレス腱のコラーゲン線維を安定化することが認められている²⁾。

(2)中枢性鎮痛作用

中枢における疼痛感受の閾値を高めるといわれる。

(3)臓器に対する作用

グルクロン酸を遊離し、解毒作用をあらわすと同時に肝臓の庇護作用を有する。
また腸の蠕動運動を促進する。

(4)循環器系に対する作用

血液のコロイド性を調節し、血流を改善する。また、末梢血管拡張作用も有する。

(5)代謝に及ぼす影響

硫酸エステル基を有し、イオウ代謝障害を改善する働きがある。

(6)蝸牛有毛細胞障害抑制作用

強大音負荷³⁾またはジビドロストレプトマイシン^{3,4)}によるモルモットの蝸牛有毛細胞障害を抑制することが認められている。

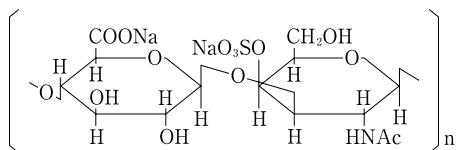
【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：コンドロイチン硫酸エステルナトリウム

(Sodium Chondroitin Sulfate)

化学名：sodium salt of sulphuric acid esters of
chondroitin

構造式：



性状：本品は白色～類黄褐色の粉末で、においはない
か、またはわずかに特異なにおいおよび味がある。
本品は水に溶けやすく、エタノール（95）、ア
セトンまたはジエチルエーテルにほとんど溶け
ない。
本品は吸湿性である。

【包 装】

1% (20mL) : 50管

2% (10mL) : 50管

【主 要 文 献】

- 1) 中谷一夫：東北医誌, 75, 309 (1967)
- 2) Jackson, D. S. : Biochem. J., 54, 638 (1953)
- 3) 久保正雄：交通医学, 13, 235 (1959)
- 4) 志多 享：日本耳鼻咽喉科学会会報, 60, 164 (1957)

***【文献請求先】

ファイザー株式会社 製品情報センター

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

学術情報ダイヤル 0120-664-467

FAX 03-3379-3053

※製造販売元

マイラン製薬株式会社

大阪市中央区本町2丁目6番8号

※※販売

ファイザー株式会社

東京都渋谷区代々木3-22-7

